

令和 7 年度エゾシカ対策事業（案）

釧路湿原生態系維持回復事業実施計画（第 2 期）に基づき、令和 7 年度は以下の事業を実施する予定。

1. 各地区における対策

<A 地区>

今年度の捕獲実績を踏まえ、捕獲目標頭数の達成を目指し、囲いわな以外も含めてより捕獲効果・効率の高い手法について検討の上、引き続きエゾシカの捕獲を実施する。

<B 地区>

植生調査結果および広域的な植生への影響把握調査の結果を踏まえ、必要に応じて植生の保護対策の実施を検討する。

<C 地区>

必要に応じてエゾシカの捕獲及び植生の保護対策を実施する。

2. モニタリングおよび評価

(1) エゾシカの生息状況

- ・A 地区：ロードセンサスを実施し、捕獲前後におけるエゾシカの生息状況の変化等により、エゾシカの個体数調整による密度抑制効果について評価する。
- ・B 地区：細岡展望台カウント調査を実施し、エゾシカの生息状況の変化を把握する。
- ・計画対象地域及びその周辺地域：関係行政機関による捕獲状況を集計する。
- ・計画対象地域における航空カウント調査を実施し（2026 年 2 月頃想定）、生息密度の経年変化を評価する。捕獲を継続的に行っている A 地区においては、捕獲による効果、第 3 期計画へ向けた捕獲目標、戦略の見直し方針を検討する。

(2) 植生

①植生詳細調査 【広葉樹林：4 地区】

エゾシカの採食等による中長期的な植生への影響及び植生の回復状況を把握する。

②簡易（採食圧）調査 【全調査区】

エゾシカの採食による短期的な植生への影響及び植生の回復状況を把握する。

③広域的な影響把握調査の試行

エゾシカによる植生への影響をより明確化するため、チェックシートを用いて簡易的な影響調査を行う。

今年度の検討内容に基づき、衛星画像及びドローンによる空撮画像を用いた、シカ道の延長距離等の解析調査を試行する。

3. 検討会議

「令和7年度釧路湿原エゾシカ対策検討会議」を1回開催する。

各種対策の実施及びモニタリング結果の評価等について科学的な助言を得るとともに、本計画の実施状況等を関係者間で共有し、効果的な連携・協力を図るための連絡調整を行う。令和8年度に第3期計画の策定作業をすることを見据え、計画見直しの方向性について関係者間で認識の共有を図る。